



自治大学校



LOCAL AUTONOMY COLLEGE

ローカル・オートノミーの充実・発展のために



東京大学名誉教授
大森 彌

自治大学校の正門を入ると、御影石の表札が置かれ、自治大学校の英語表記も書かれている。Local Autonomy Collegeである。このローカル・オートノミーは、日本国憲法第92条にいう「地方自治の本旨」(the principle of local autonomy)の「地方自治」に付されている英語表記と同一である。ローカル・オートノミーとは、自治体の自己決定権とその自律的行使を意味するといえる。自治大学校とは、ローカル・オートノミーの充実・発展に関する理論と方法に関し、全国から参集した自治体職員が共に学ぶ場である、というのが私の解釈である。ローカル・オートノミーの確固たる担い手となるために他の職員との交流の中で自分自身を鍛え直す場である。

自治体行政は公選職である首長と議会の補助機関としての職員の活動において他にない。自治体行政のあり方は職員の意欲と能力の発揮と不可分である。自治大学校の研修生には、このことの大切さを、しみじみと感得し、それを、地域と職場における課題解決のためには生かすにはどうすればよいか、それをより広くより深く学び考えることが強く期待されている。どこの自治体も人口減少時代を迎えて幾重もの困難に直面している。だからこそ、より良い未来が待っていることを信じ、それに向かって自らを変え、自治体行政を変えていく必要がある。ローカル・オートノミーの充実と発展を目指して。

自治体職員的心技体を鍛える機会を逃すな



関西学院大学大学院教授
小西 砂千夫

これからの自治体職員は、限られた人員でなんでもこなす幅広い知識が必要です。同時に、目前に大きな課題が迫ったときには、深く専門的な知識と技術が求められます。地域を愛し、地域住民に寄り添う心があることは前提です。組織人として、使い減りしない体力と段取りのよさは当然のこと、チームで仕事をするわきまえがいらいます。それだけではなく、組織のリーダーとして率先垂範し、組織を動かす能力と人格を身につけなければなりません。これが、自治体職員に求められる心技体です。

立川の自治大学校では、心技体のすべてを鍛えることができます。自治体職員として持つべき見識や、知識を深め技術を磨く術については、毎日の講義などでどんどん身につけていきます。充実した図書館は、深く学ぶのに適した資料があります。全国の志ある職員との交流は、自治体職員としてのモチベーションを高める絶好の機会になります。自治大同期生は、卒業してからも交流が続くと聞きます。自分の自治体以外の職員とのネットワークを通じて、自治体職員としての意識は大きく高まります。それに、……、自治大でもっともよいのは、研修としては比較的長期であるだけに、自分を客観的に見つめ、これからの公務員人生を充実させるために何をすべきか、思いをはせる時間が作れることです。

限られた人材を最大限活用するために、自治大に多くの職員を派遣してください。自治大にはそれに応える用意があります。

日本を代表する講師陣(平成29年度実績)

- | | | | |
|---------|-------------|--------|---------------------|
| ・宇賀 克也 | 東京大学大学院教授 | ・神野 直彦 | 東京大学名誉教授 |
| ・大森 彌 | 東京大学名誉教授 | ・童門 冬二 | 作家 |
| ・小田切 徳美 | 明治大学教授 | ・西尾 勝 | 東京大学名誉教授 |
| ・小西 砂千夫 | 関西学院大学大学院教授 | ・根本 祐二 | 東洋大学教授 |
| ・小早川 光郎 | 成蹊大学法科大学院教授 | ・宮脇 淳 | 北海道大学教授 |
| ・佐々木 常夫 | 佐々木常夫MR代表 | ・藻谷 浩介 | (株)日本総合研究所調査部 主席研究員 |

自治大学校と熊本地震



熊本県宇土市長
元松 茂樹

宇土市は平成28年の熊本地震で市制施行以来最大の危機に直面しました。多くの家屋が被害を受け、また災害対策本部となる市役所本庁舎を失い、市民生活は混乱の渦中にありました。この危機的状況の中で、支えとなったのは、国、県そして市長会を通じて頂いた多くのご支援でした。さらに、自治大学校で共に学んだ仲間やそのご縁によってつながった方々からのお力添えが、「支援の輪」から自治体間の「災害協定」へと発展しています。

現在、ご支援を頂いた皆様の力により復興の道を歩み始めておりますが、復興への道のりは長く険しいものです。よりよい宇土市を創り上げていくには市民の皆様と手を取り合い、共に前に進んでいかなければなりません。

また、市の復興、そしてさらなる発展のための大きな柱として、人を育てることが自治体を支える力になると私は考えています。私自身も、平成14年度第2部課程第135期生として学び、多くの仲間と出会いました。恵まれた環境の中で著名な講師陣と同期の仲間から受けた刺激は、今でも私の財産となり、震災対応においても大きな力をお貸しいただきました。

単なる知識の習得にとどまらない、仲間との交流や絆を深めるかけがえのない経験を多くの職員にも体感してほしいのです。

基礎基本を学び、未来を描ける職員を



北海道比布町長
村中 一徳

本町は、北海道のほぼ中央に位置する人口約3,800人の自治体で、約70人の職員とともに、「住んでよかった」と思えるまちを目指しています。

小さな町、少ない職員の中で、長期にわたる研修に派遣することは、容易なことではありませんが、少ない職員だからこそ、一人ひとりの職員に求められる役割は大きく、職員の能力や魅力が最大限引き出されるよう、研修機会の充実に努めています。

そのような中、自治大学校では、各分野において日本を代表する講師陣による講義や仲間と切磋琢磨しながらの政策立案研究など、一流の方々にも囲まれた環境での研修は、日本の地方自治発展に大きく寄与しているものと思います。

私自身も、平成26年に第171期生としてお世話になりましたが、多くの知識や情報を得ることができたことはもとより、多くの仲間とも出会うことができ、その後の仕事や生活に大きな影響を与えていただきました。また、自治大職員の皆さんが全力で働く姿も、脳裏に焼き付いています。

自治大で学んだ職員は、地方自治の基礎基本がしっかりと身に付き、疑問に思うことは積極的に改善に取り組み、未来を描くことができる職場のリーダーとして厚い信頼を得ています。

また、正に同じ釜の飯を食った仲間との絆は深く、SNS等を通じ、全国の仲間とのネットワークは有効に活用されているようです。

全国の逸材と多様な考え方を学べるチャンス



香川県副知事
西原 義一

人口減少対策、地域活力向上対策など多くの課題を抱える地方自治の現場において、これからの職員には必要な法令知識はもとより、新しい行政手法の考え方などを取り入れていく思考の柔軟性が求められると思います。行政の平等取扱いの原則も、違法なことは例外であるように、何が違法で、何が不適切か、何に重さが置かれるのか、置いてあるのか、様々な観点、視点を持つことが必要です。職員は、もっと考える力を身に付けなければなりません。

そうした職員に育てていくことが大切と考えていますが、日常の職場訓練のみでは難しく、また職員自らが高い志を持つことが重要だけに、押し付けでなく自発的な研修となるような場がどうしても必要です。自治大学校は、制約された空間で自己練習できる場として、こうした期待に応えられる研修の場であり、公務員の気構えを養える環境も整ったところと言えます。本県では毎年数名の研修生を送り出していますが、各人それぞれに特長を生かし期待に応えて来ています。

私も約半年間、著名な講師による多様な講義を受けられただけでなく、全国から将来の幹部候補生となり得る人物等とともに、スポーツや遊び、さらには政策研究の協同作業を通して得られた刺激は、20数年経った今でも忘れ得ぬものとなっています。

自治大学校で得た「考える」ということ大切さや、機会を与えてくれたことの感謝を忘れず、今年も研修生を送り出します。

自治大学校のカリキュラム

今、地方公共団体は、人口減少・超高齢社会における長期的な観点にたった地方創生の推進など、数多くの課題に直面しています。そして、地方分権改革の進展に伴って、これらの課題に自己決定、自己責任の原則に立って向き合い、住民ニーズに的確に対応していくことを強く求められています。

こうした時代の要請に地方公共団体に対応していくためには、より広い識見と高い能力をもった地方公務員を養成、確保していくことが必要不可欠です。このような認識の下、自治大学校では、これからの時代を担う地方公務員に必要な能力を総合的かつ高度に養成することを目指して、研修を行っております。

自治大学校における研修の新たなポイント

●基本法制研修

選択制により、地方公共団体の幹部職員等に必要な基本法制に係る研修を実施

●第1部課程及び第2部課程

各種の演習を集中的に実施し、政策形成能力を高めるための講義を実施

●第1部・第2部特別課程

女性幹部候補生に相応しい研修を、より参加しやすい宿泊研修日数で実施

演習課目を通じた政策形成能力等の養成

これからの時代を担う地方公務員に必要な能力として、自治大学校では六つの能力(問題発見・解決能力、政策立案能力、プレゼンテーション能力、マネジメント能力、公共政策・行政経営に係る知識、幹部候補生としての使命感)を研修生に習得してもらいたいと考えており、演習課目を通じて段階的にかつ着実に習得できるようにします。

具体的な演習課目としては、模擬講義演習、事例演習(テキスト型、持寄型、ディベート型)、データ分析演習、条例立案演習、政策立案演習を実施しています。

自治体の行財政をめぐる厳しい環境のなかで、予算や人力的に厳しいこととは思いますが、「人材の育成」や「職員的能力開発」、研修の受講は個人にとっても団体にとっても大きな財産となります。また、宿泊研修を通じて有意義な意見交換・議論・情報交換を行い、築かれた研修生同士のネットワークは何よりの財産ともなりますので、自治大学校研修の積極的なご活用をお願いいたします。

◎世界に広がる自治大学校のネットワーク 自治大学校のもう一つの顔 ～国際研修～

自治大学校では、EROPA(行政に関するアジア・太平洋地域機関)地方行政センターとして、各国から研修生を招待して日本の地方行政に関する国際的な研修を提供しています。

例えば、JICA(国際協力機構)と共同で、発展途上国の地方行政関係公務員の研修(期間5週間)を実施しており、昭和39年に初めて研修を実施して以来、毎年度15名前後の外国人研修生を対象に研修を行っています。

また、平成25年度には、日本では18年ぶりにEROPAの総会が自治大学校等を会場として開催されました。



海外からの研修生に対する講義



EROPA東京(立川)総会

主な研修課程の概要

課程名	対象	期間	年間回数	年度計画	
一般研修	基本法制研修A ①第1部課程受講者 ②第2部課程受講者 ③基本法制のみの受講希望者	1か月	2回	—	
	基本法制研修B ①第2部課程受講者 ②第1部・第2部特別課程受講者 ③基本法制のみの受講希望者	2週間	2回	—	
	第1部	都道府県及び指定都市等の課長補佐・係長相当職の職員	3か月	2回	160人 (80人)
	第2部	市区町村の課長補佐・係長相当職以上の職員	2か月	4回	320人 (80人)
	第1部・第2部特別	都道府県及び市区町村の係長相当職以上の女性職員	3週間	2回	240人 (120人)
	第3部	都道府県及び市区町村の課長相当職以上の職員	3週間	1回	120人
専門研修	税務 【税務・徴収コース】都道府県及び市区町村の賦課・徴収事務の管理監督職員	1か月	1回	120人	
	税務 【会計コース】都道府県・市区町村の税務担当職員	3か月*	1回	50人	
	監査・内部統制	都道府県及び市区町村の課長補佐・係長相当職にある職員	1か月*	1回	50人

(注)・平成30年度においては、上記の一般研修及び専門研修のほか、特別研修(医療政策短期、人材育成、地方公会計、防災)及び「地域人財づくりセミナー」を実施している。

・*の課程については、宿泊研修に先立って通信研修(一部eラーニングを含む。)を行う。

・()は1回あたりの定員である。



①管理棟

延べ床面積 3,508㎡ 階数：地上 3 階

主要施設：庶務課、教務部、教授室、研究部、外部講師控室

自治大学校の事務室がある棟です。外来者を迎え入れるエントランスホールがあり、自治大学校の管理・運営の役割を担います。



②研修棟-1、研修棟-2

延べ床面積 研修棟 -13,085㎡、研修棟 -22,512㎡

階数：研修棟 -1 地上 3 階、研修棟 -2 地下 1 階、地上 3 階

主要施設：大教室、第 1～4 教室、演習室、国際研修室

自治大学校の研修諸室がある棟です。研修生の学習の場であるとともに研修生と講師との交流の場となります。2 棟ある研修棟の間にラウンジや休憩コーナーを設けることにより、集中する学習空間とリラックスするラウンジ空間をバランスよく配置しています。



③厚生棟

延べ床面積 3,892㎡ 階数：地下 1 階、地上 2 階

主要施設：図書室、食堂、自主討議室、研修生集会室、OA コーナー

研修生の生活利便施設と自主活動施設がある棟です。研修棟と寄宿舎の中間に位置し、食事やクラブ活動等を通じた交流の場を提供します。



④寄宿舎(南側：麗澤寮、北側：洗心寮)

延べ床面積 14,131㎡ 階数：地下 1 階、地上 8 階

主要施設：宿泊室、談話室

研修生の生活の場であり、プライバシーが保たれた個人学習の場であるとともに、生活の中での出会いや交流の場となります。インターネット環境も整備された長期間の宿泊研修を快適に過ごすことのできる個室（洋室）により構成しています。また、各階にテレビ、和室、給湯設備などを備えた談話室をおいています。



⑤講堂・体育館棟

延べ床面積 1,347㎡ 階数：地上 1 階

主要施設：講堂、体育館、ジム

各種式典や大人数での研修、会議等に利用するとともに、体育関係の授業、研修生のクラブ活動、トレーニングなどに用いる複合的な施設です。



⑥屋外運動施設

主要施設：グラウンド、テニスコート

各種スポーツ活動やイベントを展開するアクティブな空間であり、緑豊かな潤いある空間を提供します。





第1部課程

タイム・イズ・マネー

兵庫県

門多 宏樹 (128期)

各自治体においても様々な研修が実施されていると思いますが、社会人になってからの長期間の研修の機会というのは、非常に貴重な経験です。しばらくの間、仕事から離れるのは抵抗があるかもしれませんが、多くの自由な時間を何に使うのかという贅沢な悩みも研修の醍醐味の一つだと思います。

私自身は初めての東京での生活ということもあり、講義のない休日は観光スポットや寺社仏閣、繁華街などできるだけ色々なところに足を運びました。直接見聞きすることで、自分の視野が広がるほか、日頃の話や説明の説得力も増すことから、このことだけでも良い経験ができたと感じています。

そして、研修の中でやはり印象深いのは、多くの時間を費やすことになる政策立案研究です。政策立案では、現状把握・現状分析を踏まえて課題を設定し、対応策を検討していきますが、こうした一連の流れは、普段の業務にも通ずるスキルです。また、チームのメンバーと役割分担をし、段取りをしながら一つの目標に向かって取り組んでいく過程は、組織の中での業務遂行と同じです。私たちの班は、チームの誰もが今まで関わったことのないテーマに取り組んだことから、苦労することも多かったのですが、先入観なしに考え、意見を出し合う刺激の多い研究となりました。政策立案終了後のチームとして一つのことを成し遂げたという達成感は格別で、今後の公務員生活の中でも心に残るものです。

時は金なり。研修の中や外を問わず、自分の興味があることに何でも挑戦できる環境が整った自治大で第2の青春を送りませんか。



第1部・第2部特別課程

仲間と深める知識と絆

大阪府堺市

田上 和佳子 (34期)

自治大では、素晴らしい講師陣による幅広い内容の講義や演習によって、スキルアップのための充実した毎日過ごすことができました。事例演習においては、地方自治体における課題に対して、限られた時間の中で様々な意見を出し合い、それをグループの結論としてまとめていくスキルを磨きました。また、それぞれ異なる視点からの意見を聞くことで、自分自身の視野を大きく広げることができました。

約4週間の研修でしたが、共に生活を送り学ぶ中で、講義や演習の課題を励まし合いながら乗り切ったり、寮のフロアの皆で食事会や誕生日会を行ったりするなど、様々なイベントを通じて仲間たちとの関係を築いていきました。女性同士ということもあり、仕事のことはもちろん、家族や職場環境のことなど、包み隠さず話すことができ、そうした中で互いに共感し、絆を深めていくことができました。また、今後働く上で参考になることなども仲間から学び、ここで得た仲間たちとのつながりは私にとってかけがえのないものとなりました。

研修に参加するまでは、職場を離れることに対して不安な気持ちが大きかったのですが、実際に行ってみると、この自治大の研修に参加できたことは自分の人生において素晴らしい経験だったと実感しました。自治大で学ぶことは本当に貴重な機会であり、自分の世界を広げるチャンスですので、参加を迷われている方にはぜひ思い切って一歩を踏み出していただきたいです。



第2部課程

親子2代で貴重な経験

北海道本別町

宮口 淳哉 (174期)

私が自治大の研修を受ける後押しとなったのは、自治大卒業生だった父の助言でした。父は麻布校舎だった昭和56年の第2部課程第72期生で、もし公務員になったら自治大は是非行ってほしいと言いかされてきました。

公務員になり43歳で研修の機会が回ってきた私には、正直「知らない人達と知らない街で2か月の勉強漬けへの不安」しかありませんでしたが、いざ入校してみるとそれは「気さくな仲間達」との「自己研鑽・スキルアップ」と「初代会暮らし」の始まりでした。座学では、基礎知識の再確認や新たな知識の習得、めったに聞けない著名講師陣からの講義など、公務員として必要な知識や心構えを改めて学び、演習では、仲間と協力・議論し課題に取り組む中で、全国の猛者達から刺激を受け自分の非力さを痛感しつつも問題解決の考え方や手法などを学ぶことができました。そして何より貴重な経験は「一生ものになる仲間達との出会い」でした。研修はもちろんのこと、洗心寮での共同生活や休日の観光、時に夜の繁華街散策など、同志と過ごした濃密な2か月は、初対面だった相手を立川駅前でも人目を憚らず涙し抱擁して別れを惜しむ存在にまで変えてくれます。

自治大にはこれからの仕事に必要な知識や情報が詰まっているだけではなく、これからの人生を豊かにしてくれる「人との繋がり」や貴重な経験が豊富にある場所です。入校を迷っている人がいれば、私は迷わず背中を押してあげたいです。



第3部課程

視野が広がる自治大

岩手県久慈市

久松 希美子 (108期)

職場、家族の理解のもと参加した約1か月の自治大研修は大変有意義なものでした。家事、育児、日常業務から離れ、毎日それぞれの分野の第一線で活躍する講師の皆様から講義を受けることができる貴重な研修です。

リーダーシップとマネジメント、危機管理等の行政運営手法、政治・経済・人口動態等さまざまな視点から見た日本の現状と課題、そして世界経済の状況等グローバルな視点を学ぶことができ、視野が広がっていく感覚を味わうことができます。幹部職員として、我がまちなあるべき姿を中長期的なビジョンを持ち、多角的な視点で政策判断していくために大変参考になるものでした。

さらに事例演習では、各地域のさまざまな施策や事業、それに伴う課題等について小グループ毎に現状把握し解決策を見出していくプロセスを学ぶことができ、ファシリテーション能力向上のほか、今後の政策展開において他団体の施策を踏まえたバランスのとれた判断をするにも役立つものと感じています。

自治体に求められるもの、また自治体職員に求められる能力は時代の流れと共に変化してきています。この変革の時代だからこそ研修に参加する意義があるように感じます。日々の業務に追われ、慌ただしく過ぎる毎日を考えるとも長期の研修は敬遠されがちかもしれませんが、しかし、充実した研修カリキュラムと全国に広がる人脈が得られることは自治大の魅力です。研修のチャンスが巡ってきたら進んで参加し、さらに視野を広げてください。

自治大学立川キャンパスの概要

- ①施設規模 敷地 50,000m²
延べ床面積 28,660m²
- ②施設概要 管理棟
研修棟 大教室(430人用 1室、130人用 2室)
中教室(60人用 2室)
演習室(24人用 13室)ほか
厚生棟 食堂(280席)、図書室、集会室、自主討議室ほか
寄宿舎 一般宿泊室(390室)、身障者用宿泊室(4室)
講師用宿泊室(4室)ほか
講堂・体育館
グラウンド、テニスコート
- ③交通 JR立川駅まで 東京駅から 特別快速利用 約40分 快速利用 約60分
新宿駅から 特別快速利用 約26分 快速利用 約41分
モノレール立川北駅から高松駅まで 約3分
モノレール高松駅から自治大学校まで徒歩 約5分

周辺図



自治大学の沿革

- 昭和28年 8月 自治大学校設置法施行 (昭和59年6月廃止、自治省設置法へ)
- 昭和28年10月 自治大学校開校 (材木町校舎:港区麻布材木町、地方職員共済組合所有建物を借用)
- 昭和29年 5月 港区麻布富士見町(富士見町校舎)に移転
- 昭和36年 5月 麻布校舎完成
- 平成13年 1月 総務省発足に伴い総務省の施設等機関となる
- 平成15年 4月 立川校舎開校

